



令和7年1月31日  
浦和明の星幼稚園  
園長 栗田 亨

松の内はとうに過ぎましたが、新年明けましておめでとうございます。寒い朝、登園する子を迎えていると、年長の女の子が満面の笑顔で駆け寄ってきました。段々の葉の上に咲いた紫色の可愛い花を差し出しました。春の七草、ホトケノザです。間もなく節分そして立春、春はそこまで来ています。

さて、昨年末に妻と二人で茨城に泊りのゴルフに出かけた時のことです。高速に乗る前に、何か踏んだようです。右後ろのタイヤ当たりからカタカタ音がし出しました。朝早いし、空気圧もほぼ正常値だったので、気にしながらもしばらく常磐道を走っていると、突然プシューという音がして、少しハンドルを取られました。高速を降りて、修理して貰いましたが、その後、人生初めてのバーストを体験しました。JAFの出番は浮かんでも、車両保険の内容は全く思い浮かびませんでした。そもそも、自分がどんな内容の保険に入っているのか知りもしなかったのです。結果的には、自分たちはタクシーで、車もレッカーでゴルフ場へ。呑気にゴルフをした夜、深谷に住む息子が170 km離れた所までタイヤ交換に来てくれ、事なきを得ました。息子には感謝しかありませんが、白い煙をあげながら、ガタガタ大きな音を立てながらバーストした車を運転するのは、生きた心地がしませんでした。どんな内容の保険に入っているのか知っておくことが重要だということを、身をもって学びました。

本日のお誕生日会では、バーストを体験して、痛い目に合った話とともに、自分がどんな状態にあるのか、知っておくことの大切さを伝えました。そして、一年のまとめの3学期は、来年度に「つながり、つなげる」ために、どうしたらよいか考えました。そのためには、自分は何ができるようになったか、クラスで担任の先生とよく話し合うよう勧めました。そして、来年度に向けて、年少さんは、どんな年中さんになりたいか、年中さんは、どんな年長さんになるか想像する。手助けになるのは、今いる年長さんがどんな生活をしているか、どのように行事を回しているかをよく見ることだと、伝えました。続いて年長さんには、年中、年少さんのよいお手本として過ごすこと。まずは、作品展「あけのほしーワールド」で、自分の「やってみたい」をどのように表現するか。そして、卒園式、浦和明の星幼稚園で過ごした日々をどのようにまとめ表現するか考えること。少しだけ、どんな小学生になりたいか、大牧小で遊んだ経験をもとに考えて実現するよう励まして結びました。

日付は戻りますが、15日(水)の園内研修会(教職員の勉強会)では、3つに分かれて作品展の大道具を作りました。青いビニール袋を切り開く係、畳一枚ほどの段ボールに波や海の様子を描く係、ひたすら卵パックを潰してキラキラ感を出す係です。そんな中ふと思いました。お子さんに持たせていただいた卵パックは、どれもラベルが剥がされ、子どもが直ぐに工作できるようになっていました。案内には、剥がすようには書いてありません。保護者の皆さんが、我が子を思って剥がして持たせてくださったことに気づき、何と子ども思いの、そして協力的な皆さんだなあと痛感しました。今、子どもたちは、このようにして持ち寄った身辺材を使って、それぞれの学年の「シーワールド」に向けて作りたいものに挑戦しています。

2月8日(土)の作品展では、決められた時刻にお出でいただき、担任のガイドのもとお子さんの成長を喜び合ひましょう。早咲きの梅の花のように、満面の笑顔咲くお子さんの成長を祝って。